

### ①地域みんなで備える防災・減災

情報通信技術システムを活用した災害時要援護者を含む避難体制が確立しているほか、防潮堤等の防災インフラが整備されており、ソフト・ハードの両面から災害への備えができています。

#### 2040年の生活シーン

##### <プロフィール>

- 15歳の男子中学生。父母、小学生の妹と播磨地域の海岸近くに住んでいて、友達とよく海へ釣りに行っている。
- 海は好きだけど、学校の防災学習でマップを作った時に、うちの近所は南海トラフ地震が起これば津波で浸水の恐れがあるって教わった。大変だ。
- 父も母も、阪神・淡路大震災は経験していないけど、南海トラフ地震や巨大台風に備えて準備しておかないと、と僕が小さい時からいつも言っている。半年に一度、自治会が主催する防災訓練があって、うちは家族で毎回参加している。

##### <避難行動>

- 先月は、学校と地域合同で避難訓練があった。震度6強の地震発生シナリオだ。これは、災害が起こったときに情報通信基盤として避難や救助の司令塔となる地域防災システムがきちんと機能するかどうか確かめておく訓練でもある。地域防災システムとつながった校内放送で、地震の揺れを知らせるアラーム情報が流れると、先生の指示を待たずに生徒全員がすぐに机の下に隠れ、揺れに備える体制をとった。
- 津波警報が出たという想定で、全校生徒が避難場所に指定されている高台の公園に避難することになった。隣にある、妹の通っている小学校の児童も一緒に行動だ。低学年の子もいたけど、お兄さん、お姉さんに手を引かれて、しっかり公園まで歩いていった。学校から避難場所までの道は、落石や崩壊に備えた対策が取られていて、周りの建物の耐震化も済んでいるので、地震が起これば通ることができる避難ルートになっている。
- お年寄りや障害のある人たちの避難は、地域の人たちがお手伝いしていた。地域防災リーダー用の地域防災システム端末に、援助が必要な人たちの住所や、誰と一緒に行動するかの情報が提供されているそうで、リーダーがご自宅の様子を見に行き、車椅子を押しながら、みんなで避難場所に連れて行かれた。希望すれば、避難場所まで自動で連れて行ってくれるロボットもあるらしい。

##### <家族の安否確認>

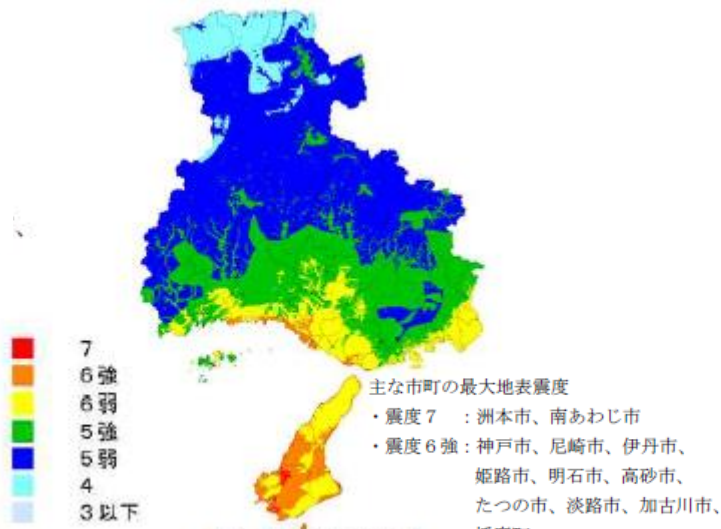
- 避難場所に到着してから、家族みんなが持っている端末のアプリに居場所を入力し、父や母との連絡の取り方も確認した。
- 児童引き渡しの訓練として、父が妹を迎えに来たので、僕も一緒に家に帰った。

##### <防災インフラ>

- 避難場所の高台からは津波を抑えてくれる防潮堤が見えた。地域防災システムとつながっている陸間の動作確認もあって、人がいないのを確認後すぐに自動閉鎖されたんだって。
- 避難訓練をすると、地域防災システムがどれだけ大切なのかがよく分かる。大学に行って、防災や減災システムの研究をするのもいいかもなあ。

## 現状や課題

### 【南海トラフ地震の震度想定】



図：地表震度分布図

(出典：兵庫県「南海トラフ地震・津波対策アクションプログラム」)

### 【南海トラフ地震の津波想定】

市町名	最高津波水位 (m)	最短到達時間 (分)	浸水面積 (ha)	
神戸市	3.9	83	1,586	
阪神地域	尼崎市	4.0	117	981
	西宮市	3.7	112	911
	芦屋市	3.7	111	79
播磨地域	明石市	2.0	115	24
	加古川市	2.2	113	17
	高砂市	2.3	117	86
	播磨町	2.2	110	3
	姫路市	2.5	120	276
	相生市	2.8	120	84
	たつの市	2.3	120	259
	赤穂市	2.8	120	489
淡路地域	洲本市	5.3	45	215
	南あわじ市	8.1	44	964
	淡路市	3.1	65	167

(出典：兵庫県「南海トラフ地震・津波対策アクションプログラム」)

## 見えてきた兆し

### 【ビッグデータの活用】

○通れた道マップ (※)



※自動車の通行実績データを基に大規模地震などの災害発生に伴う通行可能ルートを示すもの

(出典：トヨタ自動車 HP)

### 【防災活動】

○災害時要援護者対応避難訓練



(出典：西宮市「平成26年度 西宮市総合防災訓練～リアルHUG～実施結果報告書」)

○フェニックス防災システム



阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、地震災害だけでなくあらゆる災害に迅速に対応できる総合的な防災情報システム。このシステムは、災害情報や気象観測情報の収集・提供、被害予測などの機能や需給推計・ガイダンス機能を持ち、迅速で的確な初動・応急対応を支援する。

(出典：地震本部政策委員会第15回総合部会「兵庫県地震被害想定における地震調査研究推進本部の成果の活用について」)

### 【専門家等の意見】

- 災害は自然側と社会側の2つの要因で発生する。
- 社会の多様化に伴い、防災力が落ちるので、それを克服することが必要である。